

令和8年度第1回金沢市食品ロス削減推進協議会議事要旨

◇日 時 令和8年5月20日(水) 14:30～16:00

◇場 所 第二本庁舎2階 2202 会議室

◇出席者 (順不同、敬称略)

会 長	池本 良子	(金沢大学名誉教授)
	今井 喜久子	(市民公募)
	上田 久美子	(金沢市校下婦人会連絡協議会副会長)
	楠部 孝誠	(NPO法人いしかわフードバンク・ネット)
	志賀 嘉子	(一般社団法人石川県食品協会)
	杉山 朋美	(北陸大学薬学部准教授)
	高田 成智	(金沢商工会議所常務理事)
	橘 宏和	(市民公募)
	田中 弘美	(北陸学院大学健康科学部教授)
	林 貴江	(石川県生活学校連絡会)
	平野 愛子	(環境にやさしい買い物のまち・かなざわ共創協議会)
	宮野 義隆	(石川県農業法人協会常務理事)

(欠席者)

副会長	鍛冶 一雄	(石川県スーパーマーケット連絡協議会代表幹事)
	中村 明仁	(金沢市旅館ホテル協同組合)
	鍋島 盛雄	(石川県飲食業生活衛生同業組合理事長)

事務局	川端 淑愛	(金沢市環境局長)
	宮田 久美子	(金沢市環境局ゼロカーボンシティ推進課長)
	堤 宏平	(同 課長補佐)
	坂本 秋子	(同 課企画庶務係長)
	酒井 巨志	(金沢市環境局ごみ減量推進課家庭ごみ対策係長)
	河原 優里菜	(金沢市環境局ゼロカーボンシティ推進課主任)

◇会議次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 令和7年度食品ロス削減推進事業報告
 - (2) 令和8年度食品ロス削減推進事業計画(案)
3. その他
4. 閉会

川 端 局 長	【1. 開会】 <局長あいさつ> 委員の皆様方には、お忙しい中ご出席を賜り、厚く御礼を申し上げます。 また、昨年度は金沢市食品ロス削減計画の見直しにあたり、多くの貴重なご意見を賜り、重ねて感謝を申し上げます。新たな計画においても、基本理念に掲げている「食べ物の“もったいない”がないまち」の実現に向け、市民、事業者、行政等の相互の連携・協力による施策を推進して参る。委員の皆様には引き続き本協議会の活動にご理解とご協力を賜りたい。 本日は事務局から昨年度の事業結果について報告するとともに、今年度の事業計画案についてご説明させていただく。限られた時間ではあるが、委員の皆様には、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。
会 長	<会長あいさつ> 近年の物価高は、食品ロスの削減にも結び付いているようである。最近、食品製造業を数社訪問したところ、業者によって食品ロス削減に対する姿勢に温度差があると感じた。現在は食品ロスを単なる廃棄物として処理している業者も存在するが、今後は食品ロスに対する意識が変化していくことが望ましい。 メタン発酵については、これまで廃棄物処分業者がプラントを建設し、行政等からの廃棄物を受け入れていた。しかし近年は、国の補助金等を活用して企業自らプラントを建設し、ガス化する取組も進みつつあり、徐々に社会が変わっていくのではないかと感じている。 事業系も家庭系も食品ロスが徐々に減少しており、本協議会においてはより多くの意見を出していただくとともに、活発な議論ができればと思う。
事 務 局 委 員	【2. 議事】 (1) 令和7年度食品ロス削減推進事業報告 (資料1をもとに説明) フードドライブの認知度はどの程度なのか。認知度が上昇しているにも関わらず、回収量が減少しているのであれば、廃棄される食品が少なくなっていることを意味する。回収窓口が増設されたため、認知度は広がっているように思うが、実際に市民の間にどの程度浸透しているのか、調査を行ってはどうか。
事 務 局	認知度については、毎年eモニター制度を活用して調査をしている。昨年の結果では「フードドライブ」という言葉とその内容を知っている方は58%であった。一方、市有施設4か所にフードドライブ窓口が設置されていることを知っている方は37%にとどまっており、フードドライブ自体は認知されているものの、市で実施している窓口については知らなかった人

委員	が多い状況である。 第1期計画を策定した令和2年度は、言葉も内容も知っている方が37%であったため、認知度は20%以上上昇していると言える。
事務局	電気式生ごみ処理機の助成件数254件は、過去と比較して多いのか少ないのか。また、回収した堆肥はどのように利用しているのか。 電気式生ごみ処理機に対する助成は、平成11年に開始した。令和元年以降の補助件数は令和元年119件、令和2年度166件、令和3年度206件、令和4年度186件、令和5年度262件、令和6年度355件、令和7年度254件の合計1548件と、毎年多くの方に利用いただいている。 できた堆肥は市内の持ち込み協力店8店舗で回収し、リサイクル業者において熟成管理を行った後、市民農園で活用される「生ごみリサイクル循環システム（ベジタくるーん）」の取組の一環として利用されている。
委員	電気式生ごみ処理機を活用した循環システムは非常に優れているので、より多くの方に周知されることが望ましい。 フードドライブの認知度は高まってきていると思う。一方、市で窓口を設置していることを知らない方が多いため、その点の啓発があればいいと思う。
事務局	生ごみを適切に処理することだけでなく、堆肥化に結び付けることが重要だと考えている。
委員	エコスイーツのレシピを開発する際に、金沢ならではの食材の活用を考慮したのか。
事務局	調理後に残る野菜の皮などを捨てずに調理して活かす事業であるため、金沢の食材というよりは、食材を「食べきる」ことに重点をおいて開発した。
委員	バスツアーでは規格外の蓮根について学んだとのことであるが、蓮根は規格外がどの程度の割合で発生するのか。
委員	弊社では規格外のものは加工用として扱っており、およそ12～15%が加工用、いわゆる規格外とされるものである。より厳しい格付けを行う農家では、おそらく20%程度に達するのではないかと。
委員	「いいね・食べきり推進店」は、お店側が提供量を減らすなど、非常に良い取り組みだと思う。 市では料理教室など食品ロスに関するイベントを多く実施しているが、参加者数は適正であるのか。また、どのように広報しているのか。

事務局	食材使い切り教室は、毎回定員をやや下回っている状況である。昨年のバスツアーは定員を上回る応募があったため抽選を行ったが、当日キャンセルがあったため、実際の参加人数は30名を下回った。 広報は、市の新聞広報やホームページへの掲載を行っている。その他出前講座は随時受け付けており、応募があった場合には、職員を派遣している。
委員	施策（7）庁内連携について、経済局と連携した取り組みはこれまでにあったのか。また、今後予定しているものがあれば教えていただきたい。
事務局	現段階で具体的な計画はないが、昨年は「いいね・食べきり推進店利用促進キャンペーン」において経済局と連携するという話があった。今後は商店街と連携するなど、施策を検討したいと考えている。
会長	各事業者や店舗は食べ残しをなくすために、既に様々な工夫を凝らしており、これ以上何に取り組むべきか苦慮している。前任の西田委員が常々述べられていたように、企業の成功事例を学べる機会を設けるなど、全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会等と連携した取り組みを実施できることが望ましい。
事務局	本日も様々な業界の方々にご出席いただいているため、事務局としても、連携や支援のご提案をいただけると幸いである。
委員	施策（1）も（2）も親子での参加が多い。小学校や学童、公民館、教育委員会とも連携して広報しているのか。
事務局	近年は学校を通じたチラシ配布が難しい状況ではあるが、学童へのアプローチも含めて広報を強化していきたいと考えている。
会長	すごろくの出前講座の対象を学童にしたのは非常に良いと思う。時間帯や曜日にもよるが、料理教室にも参加いただけるのではないかとと思われるため、学童への広報を検討していただきたい。
委員	物価高や適切な買い物がされたことも影響し、フードドライブの回収量はこの3年間で最も少なかったとのことであった。フードドライブの最終的なゴールは、フードドライブ自体がなくなることなのか。また、回収量が減少したことで、受け入れ先に影響はないのか。
事務局	食品ロスがゼロになるのが理想ではあるが、現在の大量消費社会においては食品ロスを完全にゼロにするのは難しく、フードドライブの存在は必要であるとする。 最近では市の窓口だけでなく、スーパーやコンビニでも回収を行っており、気軽に持ち込めるようになっている。さらに企業から子ども宅食を行

		う支援団体への直接寄付の仕組みもある。このように、社会貢献に取り組む事業者が増えているため、金沢市からの寄付量が減少したとしても、影響は小さいのではと考えている。
委 員	員	バスツアーの実施について、農業体験を行っている農家に依頼してはどうか。農業・野菜・お米と食品ロスは密接に関連している。農家としても、市と連携して実施することでオフィシャル感が出るというメリットがある。
会 長	長	農業部局と連携した取組が農家にとってもメリットがあるのであればなお良い。ぜひ実施したら良いのではないかな。
委 員	員	農家の多くは農業体験の集客に苦戦している。市と連携した取り組みがあってもいいのではないかなという声も聞く。過去にバスツアーを2回実施し、集客に成功したという実績を示すことで、引き受けていただける可能性が高い。JA も同様の取り組みを行っているのであれば、連携が望ましい。
委 員	員	回収した堆肥 3,500kg は量が多いように感じるが、全て市民農園で消費されているのか。
事 務 局	局	回収し、熟成させた堆肥は戸室のストックヤードに補充している。減り具合に応じて補充するため、毎回何キロ入っているのかは把握していないが、3,500kg が過剰ということはない。今後、回収した堆肥を他の場所で活用したり、どこかで提供したりする案があれば検討したい。
委 員	員	市民が処理した生ごみで作られた堆肥であることがわかるような資料を添付して配布する等、より多くの人々に PR できる機会があるといい。
橘 委 員	員	バスツアーについて、受け入れ側の事業者も大変であると思われるが、より多くの方が参加できる方法はないのか。
事 務 局	局	バスツアーを2回開催することは調整が難しい状況である。昨年度は、抽選に外れた方には、後日開催を予定していた食材使い切り教室の案内を行った。
委 員	員	バスではなく自家用車で来場してもらえば、より多くの方が参加できるのではないかな。それとも、バス内でのイベントがあることから、あえてバスツアーとして開催しているのか。
事 務 局	局	子供たちは大型バスに乗るだけで楽しんでいる。昨年はバス内で食品ロスにまつわる〇×クイズや、簡単な冊子を配ってアナウンスするなど、バスの中でも楽しみながら学習できるような工夫を凝らした。複数の場所を巡るため、自家用車で参加の場合、受け入れ側の駐車場の問題や、移動

		に伴う迷子の発生といったリスクも想定される。
委 員		今後はバスを使わない企画の検討も必要である。
委 員		市民からすると、定員がなぜこれほど少ないのかと常々疑問に思っている。30人という少人数のために費用をかけて新聞広報で募集するのであれば、一度に多くの応募を集められる団体宛に広報を行う方法もあるのではないかな。 生ごみ処理機の助成について、市はゼロカーボンを推進しているのに、なぜ電気式生ごみ処理機の購入を助成しているのか。また、各家庭からの生ごみで作られた堆肥は、市民の緑化活動に使用するなど、緑と花の課と連携し活用したら良いと思う。
事 務 局		元々は電気を使わない段ボールコンポストの普及啓発に力を入れていたが、近年一般家庭における電気式生ごみ処理機の需要が非常に高まっており、各家庭における堆肥化や生ごみの削減を推進するために助成を行っている。段ボールコンポストは安価に行えるため、そこに対する補助は難しい。段ボールコンポストの普及啓発と並行しつつ、生ごみの削減及び堆肥化を推進したい。
委 員		そもそもゼロカーボンシティ推進課とごみ減量推進課に担当がまたがっているのが市民にとって不便である。
会 長		CO₂排出量を算出して、電気式生ごみ処理機の利用によるメリットを示すべきではないか。メリットはあまり無いようにも思うが、一度算出してみてはどうか。
委 員		段ボールコンポストに取り組まない人も、電気式生ごみ処理機であれば堆肥化に取り組む可能性があるため、取り組み数の比較も重要である。
事 務 局		電気式生ごみ処理機は、生ごみ削減の入り口として取り組みやすいと考えている。
委 員		段ボールコンポストは手間も時間もかかるため、今の若い世代の生活スタイルには適さない。電気式生ごみ処理機の需要が急激に増加している背景には、このような事情もあると考えられる。生ごみを減らす手段として、様々なものがあることをお伝えすればいいのではないかな。
会 長		電気式生ごみ処理機でできた堆肥は回収の対象となるのか。また、助成を受けたにも関わらず、乾燥させてできた堆肥をそのまま廃棄している人も多いのではないかと懸念しているが、きちんと回収店舗に持ち込み堆肥化に取り組んでいるかどうか、調査を行うべきである。

事務局	回収の対象である。堆肥を回収に出すとポイントが貯まり、商品と交換できるシステムとなっている。助成を受けた方にはアンケートを実施し、堆肥が確実に回収されるよう啓発している。
会長	承知した。アンケートの結果が出たら報告をお願いしたい。
	(2) 令和8年度食品ロス削減推進事業計画(案)
事務局	(資料2をもとに説明)
委員	施策(2)に「若年者・子どもへの周知啓発」と掲げているが、若年者とは具体的にどの年代を指しているのか。一人暮らしを始める10代後半から20代の学生にも子どもと同様に食品ロス削減への意識づけは重要だと思う。
事務局	若年者とは、10代から20代前半の方々も含むものと考えている。今年度の主な施策としては、小さな子ども向けの事業を中心に展開しているが、出前講座などの啓発活動は若年者も対象にして進めていく。 昨年度制作したすごろくは、金沢工業大学の学生からアイデアを募り共同で制作したものであり、学生とともに作成すること自体が彼らへの周知啓発および意識向上に繋がっていると考えている。 また、若年者向け啓発の一環として、4月に金沢フォーラスで環境にやさしい買い物キャンペーンを実施し、高校生や大学生、若い親子連れに向けて「てまえどり」の周知も行った。今後もこのような機会を通じて啓発活動を継続していく。
会長	今年の主な施策に10代後半～20代向けの事業が含まれていないだけである。大学等から出前講座の要請があれば、もちろん対応されると思うので、ぜひ要請をお願いしたい。以前から大学の新入生を対象にごみの出し方や不法投棄について、環境論の授業として市が講義を行っておられると思うが、その中にぜひ食品ロスの問題も取り入れていただきたい。
委員	食育推進計画の中にも食品ロス削減は含まれているはずなので、経済局との連携も含め、農業や食育の推進で実施している事業も食品ロス事業の実績に加えるなど、実施状況が分かるようにするのが望ましい。 昨年度、かがやき発信講座が2回しか実施されなかったことは残念であったが、一方で昨年度はすごろくを作成したとのことである。学童への周知を図り、出前講座の件数が増加することを期待する。
委員	最近学童の利用者が増えており、長期休みにスペースも限られた中で、子どもたちを長時間どう楽しませるか、学童は苦慮している。そのような中で、すごろくは大きき的にも適していると思われるので、まずは学童に周知したらよいのではないか。

委 員	出前講座は、回数無制限で予約があれば何回でも行くのか。
委 員	かがやき発信講座の申し込みがあれば市は出向いている。校下婦人会連絡協議会にもかがやき発信講座の案内が届くが、講座メニューが多岐にわたるため、食品ロスがテーマとしてなかなか選ばれないという実情がある。婦人会の側でもう少しアピールすれば選ばれるかもしれない。
委 員	出前講座の予算の中で、すごろくを配布すればいいのではないかと。
事 務 局	制作したすごろくセットは、10セットのみであるため、配布は難しいが、貸出は可能である。また、ホームページ上でダウンロードできるため、必要に応じて印刷が可能である。
委 員	ダウンロードが容易な時代ではあるが、すごろくを使ってもらうことが目的であれば、手元にすぐ使える状態で届く方が普及率は高まるのではないかと。出前講座で実施するだけでなく、すごろく制作キットとして送付する方法も有効だと思う。
委 員	バスツアーを自家用車での参加とし、バスを借り上げる予算をすごろく作成キットに充てる方が、費用対効果が高いと思う。バスでしか行けない場所ではないため、バスの必要性を感じないうえ、バスツアーや視察見学は対象者が限られる。
会 長	施設見学だと対象者は限られるのは仕方ないと思う。バスツアーの継続については、今後検討していただくということで、夏休みの親子イベントとしては、食品ロスを考えるきっかけづくりにいいと思う。
委 員	e モニターアンケートの中で、バスツアーの認知度や内容を評価してもらったらいいのではないかと。
会 長	行政が食品ロス削減をテーマにしたバスツアーを実施すること自体が、市が食品ロス削減に力をいれているという市民に対するアピールになる。以前は持ち帰り用パックの配布に注力していた。それを令和5年度で終了し、現在はバスツアーを実施している。今後もバスツアーを何年か実施し、その効果を踏まえて次の施策を考えていくということだと思うので、もう少しあたたかく見守っていただけたらと思う。来年度以降に向けて農業との連携等、意見を出していただくのは重要である。 また、昨年度にすごろくという効果的な教材が完成したということである。すごろくの出前講座に市職員が何度も出向くのは負担が大きいため、大学生のボランティアなど様々な方の協力を得て実施したらいいのではと思う。 本日は委員からたくさんの貴重な意見をいただいた。それでは、(2)令和8年度食品ロス削減推進事業計画(案)について事務局案で概ね了承

一 会	同	するということによろしいか。 了承
会	長	事務局には、本日出された意見を十分検討して、今年度の事業を進めていただくようお願いする。
一	同	【3. その他】 案件はなし
事 務 局	局	【4. 閉会】 長時間にわたり熱心にご協議いただき感謝申し上げます。 以上をもって、令和8年度第1回金沢市食品ロス削減推進協議会を閉会する。